

TCM

Since 1975

東京音楽大学付属 民族音楽研究所



TCM



所長メッセージ —音楽文化の新たな地平を拓く研究所として—

東京音楽大学は「音楽文化の新たな地平を拓く」ことをめざしています。その附属研究機関として、本研究所は世界のさまざまな伝統的な音楽文化を継承しながら新たな創造の基礎となる音楽研究、音楽実践、音楽教育を組織的に展開してきました。また、その成果の活用により社会教育と地域との連携にも大きな成果をあげています。

音楽を「音」から捉えるだけではなく、音楽を生み出した社会やひとびとや歴史について考えることが真の創造につながります。本研究所はアジアに重心を置きながらも、世界の多様な音楽文化を多角的な視点から研究し、その成果を学内外に発信していきます。社会が多文化的な姿を取りつつある現代や未来社会における課題解決にもつなげられる、新たな価値の創造をめざします。



所長 小日向 英俊

研究所の理念、活動内容

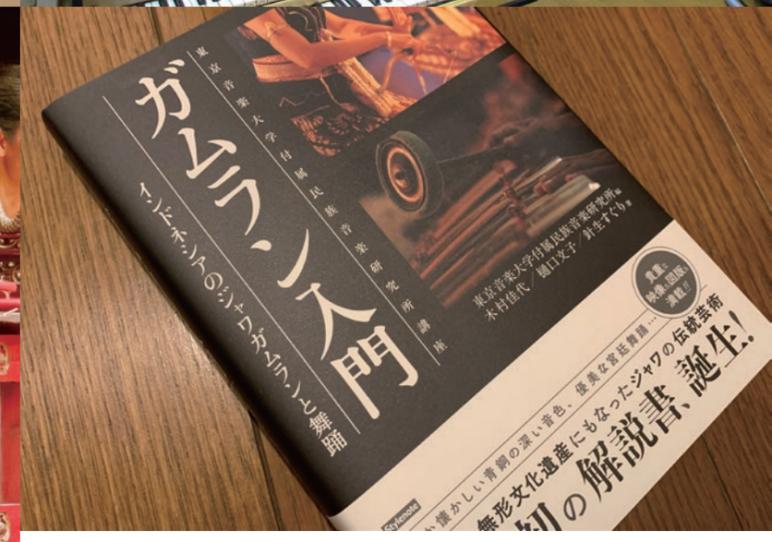
理念

本研究所は、世界諸地域の音楽文化を対象として、その同時代的な姿と歴史を調査研究する。「音楽」を構成する音そのもの、その背後にある人や社会の研究のみならず、社会への応用も図り、我が国および世界における新たな音楽文化の創造に寄与する。

活動

研究所では、以下の活動を行っている。

- (1) 民族音楽の資料の蒐集・調査研究並びに発表
- (2) 内外の研究機関及び研究者との交流連携
- (3) 研究会・公開講座等の開催
- (4) 学部及び大学院の教育活動への協力
- (5) 保有する資料及び民族楽器の保存整理
- (6) 研究紀要及び『東京音楽大学附属民族音楽研究所講座』シリーズ等の発刊
- (7) その他



沿革

1975年、伊福部昭 本学元学長(作曲、1914~2006)が、かねての希望であった民族音楽研究室(現、附属民族音楽研究所)を設立し初代所長となった。設立当時について伊福部は、「教育音楽は余りにも欧米一辺倒で、未だ脱亜入欧の名残を見る趣で、自分の立場を見失い、アジア諸民族の音楽などは殆ど顧みられることがありませんでした。」と後に述べている。

当初は、アイヌの音楽、沖縄の音楽、インドネシアの音楽を中心に研究を進め、その後、さまざまな音楽文化を専門とする所員が加わり、科学研究費助成金等を得ながらより広い領域の研究が進められている。さまざまな音楽の研究と情報提供にとどまらず、音楽の演奏や、音楽の社会への応用、新しい音楽の創造に力を注いできた。

大学ならびに大学院教育との連携としては、1979年より学部にて特別実技科目「ガムラン演奏コース」(現「ガムラン実習」)を設けたことを皮切りに、大学院に「邦楽・古楽・民族楽器実習」を設け、2020年度からは大学院音楽文化研究専攻に新設された「多文化音楽研究領域」における研究指導の中核を担っている。

また、1991年より世界のさまざまな音楽の公開講座シリーズを開始し、1996年には「社会人ガムラン講座」(舞踊を含む)を、2003年にはさまざまな民族楽器の入門講座も開始して、社会教育を幅広く展開した。2013年からは、実技と講義により総合的な音楽理解をめざす「民族音楽等 社会人特別講座」、2023年からは社会人講座「日本・世界の伝統楽器を演奏しよう」を設け、多数の修了生を輩出している。



年表

- 1975年 民族音楽研究室設立(作曲科研究室内)
- 1979年 学部・特別実技科目「ガムラン演奏コース」の開講
- 1991年 東京音楽大学附属民族音楽研究所に改称
- 1991年 「公開講座」の開始
- 1996年 「社会人ガムラン講座」の開講
- 1998年 研究紀要『伝統と創造』の発刊
- 1998年 「ジャワ舞踊講座」の開講
- 2003年 「民族楽器入門講座」の開講
- 2013年 「民族音楽等 社会人特別講座」の開講
- 2015年 大学院「邦楽・古楽・民族楽器実習」の開講に伴う研究指導担当
- 2020年 大学院「音楽文化研究専攻多文化音楽研究領域」の設置に伴う研究指導担当
- 2023年 社会人講座「日本・世界の伝統楽器を演奏しよう」の開講
学部「音楽文化教育専攻」内「多様性と音楽」部門設置に伴う指導担当

所長

- 1975年~ 伊福部 昭
- 1998年~ 三善 清達
- 2001年~ 兎束 俊之
- 2005年~ 池辺 晋一郎
- 2018年~ 加藤 富美子
- 2024年~ 小日向 英俊



詳細はホームページをご参照ください
<https://tcm-minken.jp/>

過去の講座チラシ一部抜粋



研究

研究所では、国の科学研究費およびその他の研究助成団体の助成を受けながら、アイヌ、インド、琉球と中国、ブータンの音楽、尺八や天吹など、多様な地域やテーマの研究を行っている。明清楽分野では、2011年3月、故・伊福部昭本研究所名誉所長蔵の明清楽器資料が寄贈された。楽器(約100点)は本研究所で、関係書籍、楽譜(系約90点)などは本学付属図書館で受け入れた。

以下に、2023年度末時点での研究課題を示す。

- 「在日インド系コミュニティの音楽とその動態」
- 「ヘリテージ・エデュケーション教員養成プログラムの日本・ブータン共同開発」
- 「琉球における中国音楽受容の実像」
- 「アイヌ伝統音楽のソーシャルメディアを利用した新たな教授法」
- 「天吹による稚児唄の復元演奏についての研究」
- 「天吹の装飾技法の研究——尺八との比較から——」

明清楽器



明清楽楽譜

『魏氏楽譜』、『魏氏樂器圖』、『聲光詞譜』、『月琴楽譜』ほかの楽譜が、「伊福部昭明清楽コレクション」として関連資料とともに付属図書館で管理され、デジタルデータを図書館館内で閲覧できる。

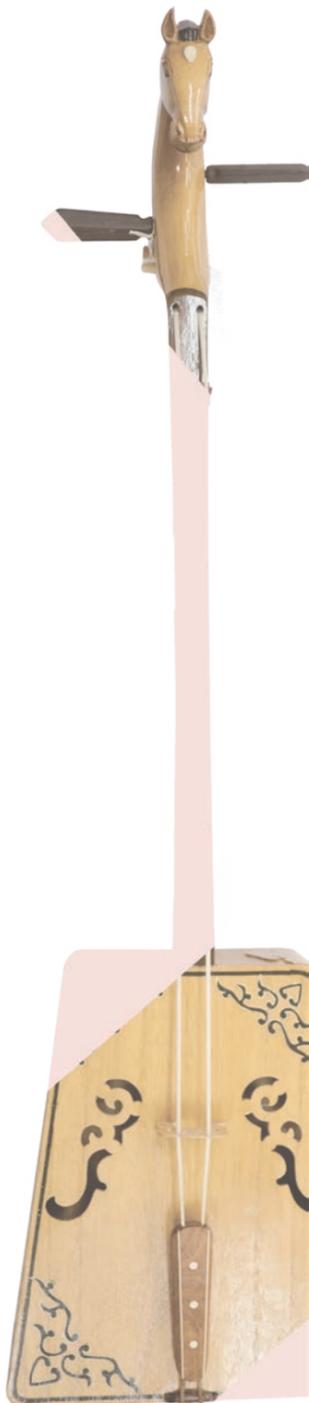


<https://tokyo-ondai-lib.jp/collection/minshingaku/>



研究分野

教授	小日向 英俊	インド音楽、世界音楽の越境
	藤原 豊	作曲
客員教授	糺場 富美子	作曲
	坂崎 則子	リュート、ルネサンス音楽
特任教授	滝田 美智子	生田流箏曲
	毛 Y	古箏
	劉 継紅	二胡
准教授	福田 裕美	民俗芸能研究、アートマネジメント
特任准教授	内藤 久子	生田流箏曲
講師	柿塚 香	古典尺八
	ウメトバエワ・カリマン	クルグス(キルギス)音楽
	木村 佳代	ジャワガムラン
	咲久徠 史子	パンフルート
	首藤 久美子	薩摩琵琶
	千葉 伸彦	アイヌ音楽
	針生 すぐり	ジャワ舞踊
	坂 由理	チェンバロ
	樋口 なみ	ジャワガムラン
	淵上 ラファエル 広志	尺八類の音楽、世界音楽研究
	水戸 茂雄	リュート、ピウエラなど
	吉澤 徹	リコーダー、18世紀フルートなど
研究員	小出 稚子	ジャワガムラン
	横田 誠	ジャワガムラン



研究紀要『伝統と創造』

研究所刊行物として、第1号(1998年度)の創刊から第3号(2002年度)まで発行した後、長らく休刊が続いた。第4号(2014年度)よりの刊行再開とともに、カラー写真と動画も掲載したデジタル版を発刊。所員のさまざまな研究活動、報告、研究所の活動記録などを掲載している。



アジア音楽の理論と奏法

本研究所の教員が連携して、アジア諸地域の音楽文化の理解を図る授業。音楽理論の理解と演奏実践の両面を組み合わせることに特徴がある。履修生は1年間で、伝統邦楽(箏)、インドネシア・ジャワ島のガムラン音楽、インド音楽(シタール)、アイヌ音楽の4領域の楽器奏法の基礎を順番に学びつつ理解を深めていく。その他、年に数回実施する合同授業では、アジア諸地域の音楽の専門家を招いての講義と演奏に触れる。2013年度の開講時より、さまざまな専攻の学部生が参加している。

ガムラン実習

本研究所の教員が指導に当たり、前身の特別実技科目「ガムラン演奏コース」(1979年開講)からの長い歴史を持つ授業。インドネシア・ジャワ島のガムラン音楽の演奏実技を、段階を経ながら学べることで人気がある。また、ジャワ舞踊も開講しており、ガムラン音楽を体系的に深めていくことができる。大学院生も聴講することもあり、この授業の経験を自らの専攻に活かす学生が多い。特に、作曲専攻者からは、アジア音楽の楽器を作品に活かした新たな作品が生まれている。

邦楽・古楽・民族楽器演習

本研究所に所属する多様な音楽を専門とする教員が担当する授業。邦楽(生田流箏曲、古典尺八、長唄三味線、薩摩琵琶)、古楽(リュート、ギター、ビウエラ、チェンバロ、リコーダー)、アイヌの伝統音楽(トンコリ、ムックリなど)、中国音楽(二胡、古箏)、クルグス(キルギス)音楽(コムズなど)、モンゴル音楽(馬頭琴など)、インド音楽(シタール)、インドネシア音楽(ジャワガムラン、ジャワ舞踊)ほか、アジア・アフリカの楽器・舞踊・歌唱法を扱う。

多文化音楽研究領域

音楽研究科音楽文化研究専攻に、2020年度より新設された領域。「新しい音楽文化の創造と発信」を目的としたさまざまな授業・講義を、本研究所教員がコアとなり担当する。理論研究、演奏研究、創作研究を通じて、アイヌ伝統楽器(トンコリほか)、インド音楽(シタール、タブラ)、インドネシア音楽(ジャワガムラン、ジャワ舞踊)、中国音楽(二胡、古箏)、キルギス(クルグス)音楽(コムズ)、邦楽(生田流箏曲、古典尺八)、モンゴル音楽(馬頭琴ほか)ほか、様々な音楽文化を扱う。

公開講座

年間4~5回の予定で、本学学生をはじめ一般に向けた公開講座を開催している。これまで、沖縄の組踊り、韓国の伝統音楽、台湾プノン族の歌と踊り、モンゴルの馬頭琴やインド音楽、シルクロードや中国の音楽、クルグス(キルギス)、ジョージア(前グルジア)、中東アラブの音楽など様々な国や地域の音楽や芸能について、講義と演奏による講座を企画してきた。

アイヌ音楽については、「二風谷の歌と踊り」、「千歳アイヌの歌と踊り」、「阿寒のアイの歌と踊り」といったタイトルの下で、数多くの講座を展開した。明清楽に関する、実演を中心とした講座も展開した。



社会人ガムラン教室

インドネシア・ジャワ島のガムラン音楽の合奏講座(1996年より、年間35回)、および舞踊講座(1998年より、年間30回)を、社会人を対象として開講している。年度末の修了発表会(約3時間)に向けて、毎年60人程の受講生が練習に励んでいる。夏には受講生が集まり、インドネシア国立芸術大学スラカルタ校での研修に、講師と共に参加している。



民族楽器入門講座

2003年より一般に向けた講座として、春と秋のそれぞれ6週間に亘り開講している。現在は、アイヌの楽器トンコリ、月琴(明清楽器)と琴、雅楽の龍笛、中国の二胡、モンゴルの馬頭琴、クルグス(キルギス)のコムズ、世界に広く奏でられている口琴、のどうた(ホーメイ)、親指ピアノ、ルーマニアのパンフルート、インドのタブラ、アラブのダラブカ、西アフリカのジェンベなど22講座を開講している。広く一般の方々が、世界の様々な楽器を気楽に楽しみ親しむ機会の提供をめざしている。毎回100名を超える受講生が参加している。



民族楽器等社会人特別講座

古楽、邦楽、各種民族楽器の修得を目的として、18歳以上の社会人を対象とした講座を、2013年より開講している。年間25回の個人レッスンと20回の座学を経て、年度末には修了試験として演奏発表会がある。複数年にわたり受講し、演奏技術の向上と音楽的知見を広げることをめざす受講生も多い。



アンサンブル講座

「日本・世界の伝統楽器を演奏しよう」とのタイトルのもと、社会人を対象としたオープンカレッジとして、新たに2023年度より開講された。日本の箏、クルグス(キルギス)のコムズ、モンゴルの馬頭琴、古楽のリコーダーとリュート、東欧のパンフルートの著名な演奏家が実技指導にあたっている。

社会連携（学外連携）

2019～2023年度の活動

東アジア文化都市2019豊島パートナーシップ事業



楽器がつむぐ東アジアの未来（2019.4～9）

若手クリエイターのための日本・中国・韓国の伝統楽器ワークショップ

若手クリエイターによる東アジアの「現代×伝統」作品制作・演奏会
「楽器がつむぐ東アジア「現代×伝統」～アニメ音楽、オーケストラ楽器、伝統楽器、映像～」

一般のためのワークショップ
「世界の弦楽器を弾いてみよう！」

文化庁「2022年度大学における文化芸術推進事業」

日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成
伝承を担うフィールドから学び、ともに作り、地域へつなぐアートマネジメント人材育成
—伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して—



https://www.tokyo-ondai.ac.jp/art_management/



フィールドとともにつくる（2023年度）

- I. 基礎講座：伝承を担うフィールドと実践を展開するフィールドをつなぐための基礎講座
- II. 実践セミナー：芸能体験講座
- III. 基礎講座関連企画「奥会津の木地師」上映会
- IV. 企画制作研修：
 - A-祭囃子をインクルージョン社会での生涯の学びにつなげるプロジェクト
 - B-獅子をつなぐプロジェクト～三匹獅子舞をつなぐ“ことば”の再発見～
 - C-日本とインドをつなぐ言葉とリズムーともに生きるための新しい音楽コミュニティづくりー
- V. 2023年度活動報告会：企画制作研修 企画A、企画B、企画C 合同報告会

八王子音楽祭2021『世界の楽器展覧会』（2022年度実施）



公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団に事業協力し、所蔵楽器の一部約60展を展示した。

本音楽祭のキャッチフレーズ「Music for Earth ♪」に沿い、楽器を通じて世界のさまざまな音楽を紹介した。

所蔵楽器



トンコリ
日本



一弦琴
日本



二弦琴
日本



琴（古琴、七弦琴）
中国（日本製）



法螺貝
日本



タブラー・パーヤーン
インド



トゥンクル
樺太



モリン・ホール（馬頭琴）
中国（内モンゴル自治州）



コムズ
クルグス（キルギス）



ゴピーチャンド
インド



シタール
インド

所蔵楽器



ピリンバウ
ブラジル

グイロ
ペルー



バラフォン
ブルキナファソ



チャランゴ
ペルー



ウード
トルコ



ジェンベ
セネガル



シェケレ
ブルキナファソ



リンバ
タンザニア (ゴゴ)



ダラブッカ (ダラブカ)
トルコ



サウン・ガウ
ミャンマー



イプヘケ
ハワイ諸島

インドネシア・ジャワ島のガムラン楽器



ゴング類



ケノン



サロン



ガンデル



ボナン



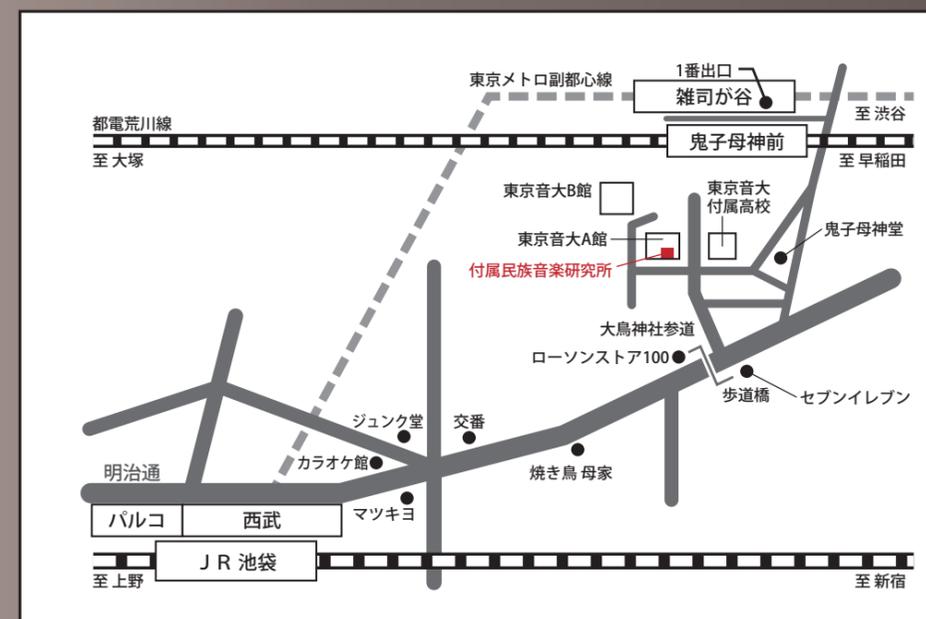
クندان類



平成十六甲申年 如月 二十九日
 伊福部 昭

司馬 造之句

心 而 樂



補助・助成金による活動

1. 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（現・公益財団法人アイヌ民族文化財団）—1999年、2001年、2006年各公開講座を開催
2. 豊島区「東アジア文化都市2019豊島」パートナーシップ事業—2019年
3. 文化庁「2019年度大学における文化芸術推進事業」—2019年～
4. 日本学術振興会科学研究費助成事業

東京音楽大学附属民族音楽研究所

〒171-8540 東京都豊島区南池袋3-4-5

Tel: 03-3982-2136 Fax: 03-3982-3187

Mail: minken@tokyo-ondai.ac.jp

Web: <https://tcm-minken.jp>

